

式辞

千畳が原の学び舎にも穏やかな春の訪れが感じられる今日のこの佳き日に、下関市副市長 三木 潤一 様、下関市教育委員会 教育長 児玉 典彦 様、PTA 会長 佐々木 猛 様 並びに多数の保護者の皆様方をお迎えして、下関商業高等学校第137回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりましても、大きな喜びです。

ただ今、卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませう。皆さんは、これまで3年間、様々な困難にも果敢に立ち向かい、これを克服し、今日の日を迎えることができました。

とりわけ、皆さんは、新型コロナウイルス感染拡大により、中学校3年生の3月から本校入学後の5月末までの長期間に亘る臨時休業をはじめ、学習や学校行事、部活動などに多くの制約や変更が強いられた中で高校生活を送ることを余儀なくされました。

このような逆境にあつたにもかかわらず、見事に自らの進路実現を果たした皆さんの不断の努力と不屈の精神に、心から敬意を表します。

また、その陰には、深い愛情をもって見守ってくださった御家族の方々や友だち、先生方など、多くの人たちの支えや励ましがあつたことも心に刻み、感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

さて、今回は「20世紀の人権のシンボル」と呼ばれるネルソン・マンデラを紹介したいと思います。

マンデラは、1918年、南アフリカのトランスカイ村に生まれました。大学在学中から反アパルトヘイト運動に熱心に取り組みましたが、1962年に国家反逆罪で逮捕され、終身刑となりました。その後、27年後に釈放され、1993年にノーベル平和賞を受賞、そして翌年に南アフリカ初の全人種参加選挙により大統領に就任しました。

このように、自由と民主主義を強力に推し進めたマンデラですが、目標設定の大切さについて、次の言葉を残しています。

「成功するために大切なのは、どこから始めるのかではなく、どれだけ高く目標を定めるかである。」

本校では、本年度の学校教育目標スローガンを「夢を志へ」としましたが、皆さんは、正にマンデラの言葉を体現し、自らの進路実現を成し遂げました。進学先や就職先においても、新たな目標を高く設定し、その実現に向けて邁進してください。

次に、マンデラの言葉をもう一つ紹介します。

「生きるうえで最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある。」

これから皆さんは、複雑で予測困難な時代を生き抜いていかなければなりません。皆さんが新しい社会を作り上げていく主役です。これからの人生、多くの楽しいことが待っていることでしょう。一方で、辛いことや苦しいこともあるでしょう。時には失敗することもあるでしょう。

しかし、決して失敗を恐れてはいけません。挑戦しないことを恐れてください。躓きは、気付きへとつながります。気付きは、成長へとつながります。

皆さんには、これからも自分の良さや可能性をしっかりと認識し、多様な人々と協働しながら困難にも勇敢に立ち向かい、ともに豊かな人生を切り拓いていてもらいたいと願います。

終わりになりましたが、保護者、御家族の皆様方におかれましては、本日の御卒業、誠におめでとうございませう。

この佳き日に、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、心よりお喜びを申し上げます。

本日まで本校にお寄せいただきました御支援、御協力に、ここに改めて深く感謝を申し上げますとともに、今後とも本校の教育に益々のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを祈念いたしまして、式辞といたします。

令和5年3月1日

下関商業高等学校長 久保田 力哉